

■ ご挨拶	1
■ 特集①ほか	2
■ 特集②	3
■ コラムほか	4

# やぶやぶにゆうす

冬号  
2022年(令和4年)  
12月23日 金

発行所 株式会社大藪保険コンサルタント 〒167-0032 東京都杉並区天沼3-2-6-2階 電話 (03) 3392-6765 www.yabuyabu.com

## ご挨拶

### 弊社 合併記念「感謝の集い」開催御礼より

この度はご多用のところ、(株)大藪保険コンサルタント及び(有)やぶライフプランニングの合併記念「感謝の集い」にご臨席賜り、誠に有難うございました。

皆様から温かいご激励や鄭重なるご祝辞を賜り、心より御礼申し上げます。

思い返せば、岩手県金石市で生を受け、大学進学で上京しました。また、マネージャーを務めた学生バンド「飛行船」は東芝EMIでデビューを飾りましたが、道半ばで断念しました。

その後、昭和五十六年、富士火災海上の研修生を皮切りに、保険業界に飛び込み、昭和六十三年に業界最高峰の特級代理店に認定していただくことができました。

また一方では、顧客本位の商品を選択提供する米国の保険市場を勉強するために、何度も研修に出かけ、多くの保険会社の商品を提供できる保険代理店の体制を創り上げてきました。

そして今日まで、青年会議所や法人会、ライオンズクラブ、商工会議所、業界団体等で本場に多くの方と出会うことができ、出会いの数だけの発見と教訓により育てられてきました。

今後、ますます厳しさを増す保険業界の中で、来年七〇歳を迎えるにあたり、会社をシンプルにして新しい時代に対応できる組織に創り上げる所存で合併することとしました。

心ばかりではございますが、「感謝の集い」をお楽しみいただければ幸いです。不慣れた宴席で不行き届きな点が少々あるかと思いますが、何卒ご容赦いただきたく存じます。

社員一同さらに心を引き締め、より皆様に親しまれ信頼される保険代理店を目指し努力精進してまいりますので、変わらぬご支援とご鞭撻のほどを伏してお願ひ申し上げます。(大藪)



## 加賀本多家のお殿様にお目通り

十二月上旬に、友人四人で能登・加賀を旅行しました。その際、加賀本多博物館に金沢・旧第九師団本部跡地に立つレンガ造りの建物でした。能登在住の友人から紹介されたのが、加賀本多家第十五代当主の政光さんでした。本多家は、武勇に優れ、「家康に過ぎたる者は平八郎忠勝」と謳われた忠勝家(岡崎城主)と、智謀に優れ、家康の名参謀と謳われた正信・正純家(宇都宮城主)に分かれました。



正信の次男であった政重は、上杉家に仕え、直江兼続の養子となりましたが、上杉家の米沢転封により脅威がなくなつたため、加賀前田家(百万石)のお目付け役として赴任を命じられました。

加賀前田家の旧来からの城代家老である横山家の知行が三万石であったのに対して、本多家は五万石を与えられ、筆頭家老となりました。政重は、加賀本多家の初代にあたります。赤穂浪士で有名な赤穂浅野家が五万石であるので、五万石は立派なお殿様です。

金沢市本多町は、まさに中・下屋敷の地域にあたります。博物館が所在する上屋敷を含めると、五百人ほどが住んでいます。

そのお殿様の末裔にあたる政光さんご本人から館内をご案内いただいた上に、質疑に丁寧に応えてくださり、感謝感激でした。展示品の中には、名刀・備前長船や鎧の金細工など。また、本多家代々の受領名である「安房守」を軍艦奉行並に任じられた勝海舟に譲ったエピソードなども楽しく聞かせていただきました。(大藪)

## 警視庁より表彰されました

この度、弊社は警視庁より交通事故防止寄与団体として、交通部長・東京都交通安全協会会長の連名で感謝状を授受しました。

春と秋の全国交通安全運動の際、弊社のオーロラビジョンに運動の呼び掛けを行ったり、区内事業所向けに安全講習会を実施していることなどが評価されたものと受け止めています。

大藪自身の免許証の色はブルーですが、引き続き区内の交通安全に協力していきたいと思えます。



## 編集後記

皆様、こんにちは。編集長の増田裕一です。今号のやぶやぶニュースはいかががでしたでしょうか？

今号は、十一月に開催された、弊社合併記念「感謝の集い」特集号となりました。

弊社が総力を挙げて開催した「感謝の集い」ですが、会場となった京王プラザホテル始め、関係者の皆様のご協力、そして何よりも長年、弊社にご愛顧を賜りましたお客様、皆様の温かいご支援のもと、盛会となりました。

皆様から温かいご激励・ご祝辞を賜り、御礼申し上げます。社員一同、心を引き締め、より皆様に親しまれ信頼される保険代理店を目指し努力いたしてまいりますので、変わらぬご支援とご鞭撻のほどをお願い申し上げます。

最後に、私事で恐縮ですが、この度、家庭の事情で退職することとなりました。志半ばで会社を去ることは残念でありませんが、短い間ですが、読者の皆様には、大変お世話になりました。誠にありがとうございます。皆様のご健康と多幸を心よりお祈り申し上げます。(増田)